

# DIAES 2022

DOSHISHA INTERNATIONAL ACADEMY ELEMENTARY SCHOOL



同志社大学附属  
同志社国際学院初等部



# DIAES 2022

DOSHISHA INTERNATIONAL ACADEMY ELEMENTARY SCHOOL



同志社大学附属  
同志社国際学院初等部





# The Mission Statement of Doshisha International Academy

## 同志社国際学院の 基本理念

Doshisha International Academy (DIA), based on the educational philosophy of Doshisha, strives to nurture people dedicated to bettering their lives through lifelong learning, who are committed to bettering the world through global cooperation, and are devoted to promoting love as the principle to help us choose the right path while cherishing God's gift of life.

同志社国際学院は、同志社教育の基本理念に基づき、  
よりよき人生を営むために生涯にわたって学び続ける人を、  
よりよき世界を実現するために世界を結ぶ行動をし続ける人を、  
そして、神様から与えられた生命を正しく生きるために  
愛を深め続ける人を、その国際学校としての教育の中で育てます。

## From the Head of Schools

At Doshisha, conscience education is the founding spirit and "Christian principles", "Liberalism" and "Internationalism" are the principles of education. DIA offers its own curriculum for each child to live a fulfilling life and to develop an international sensibility and play an active part in the world.

DIA has both an elementary school and an international school on one campus creating a unique and culturally diverse learning environment for students to nurture and develop friendships, explore and grow.

Our goal is for students to develop international mindedness through our bilingual programs. We also aim to improve critical thinking and inquiry-based learning skills.

As an authorized International Baccalaureate (IB) school, our inquiring-based, concept-driven curriculum follows the Primary Years Programme which is a global standard academic programme. The concept of the 'IB Learner Profile', encompasses 'Living Powers' indicated by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, and Doshisha's fundamental principle of "conscience".

同志社では、良心教育を建学の精神とし、キリスト教主義、自由主義、国際主義を教育理念に掲げています。同志社国際学院では、子どもたち一人ひとりが豊かで充実した人生をすごせるように、さらに国際感覚を身につけて世界を舞台に活躍できるようにと考え、独自のカリキュラムを提供しています。

国際学院では、ひとつの校舎に初等部と国際部の二つの学校を併設しています。初等部だけではなく、また、インターナショナルスクールだけではなく融合された状況で育まれる友情や人間関係を礎に、他にはない教育環境を作り出しています。また、初等部ではバイリンガル教育により国際感覚を身につけ、コミュニケーション力を育むとともに探究の学びによる創造性や論理性、思考力の向上を目指しています。この“探究の学び”は国際バカロレアの公式認定校として世界標準の初等教育プログラムを展開しています。その学習者像 (IB Learner Profile) は文部科学省が求める“生きる力”や同志社の原点である“良心教育”と大きく重なり合っています。この学習者像を理解しながら“探究の学び”を経験することで、子どもたちは、これからの社会で求められる人に成長します。



DIA Head of Schools

Tanimoto Takahiko

同志社国際学院 初等部・国際部 校長

谷本 高彦

## Educational Policy

### Curriculum Policy 取り組む教育の方針

1. 生涯にわたって学び続けられるよう、実生活に関連したテーマで、概念的な理解を深められる探究プログラムを提供する。
2. 人々と交流する様々な場面に応じて日英両言語を使い分け、自らの考えを表現するコミュニケーション力を育む。
3. 学習で得た知識を活用し、判断の根拠や理由を明確に示しながら考えを述べる力を身につけさせる。
4. 誠実かつ勇気を持ち、正しい判断を的確にできる能力を養う。
5. ICT機器を情報収集や記録するツールとしてだけでなく、リテラシーを身につけて、他者との理解を深めるためのツールとして活用させる。
6. 国際的な視野を持ち、他者と協力しながら主体的に取り組む姿勢を育む。

### Diploma Policy 卒業時に身につける力

1. 何をすればやりたいことができるのか、主体的に創造し、表現・行動できる児童
2. 多様な文化の理解と言語、尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献できる児童
3. めまぐるしく変化する社会において他者と協力しながら道を切り拓く児童

### Admission Policy 入学時に求める児童像

1. 自分自身の行動に責任を持ち、人の話に耳を傾け、理解しようとする園児
2. 知的好奇心や仲間と協調して学ぼうとする力を持った園児
3. 言語への興味が高く、話を意欲的に聞く姿勢を示し、バイリンガル教育への可能性を持った園児
4. Educational Policyに書かれている考えを受け入れながら学校とともに子どもの成長をサポートする家庭

## DIAES Student Profile 育てたい児童像



### Learner Profile adopted by DIAES

DIAES sets a goal of 10 Learner Profile attributes as defined by IB. We provide a diverse education to individuals and groups to be responsible members of local communities, countries and global communities.

The IB learner profile represents 10 attributes valued by IB World Schools. We believe these attributes, and others like them, can help individuals and groups become responsible members of local, national and global communities.

### DIA初等部が育てる学習者像

DIA初等部ではIB(International Baccalaureate / 国際バカロレア)が定めた10の学習者像(Learner Profile)を目標として掲げています。「個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティーの責任のある一員となること」を目指し、多様な教育を展開しています。

# I キリスト教主義

Christian Principles



## 真の国際人として生きる ～創立者 新島襄から受け継がれる良心教育～

初めて読んだ中国語の聖書に記された「天父」という言葉。  
同志社の創立者 新島襄は、この概念にとっても新鮮な感動を覚えました。

「だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、  
わたしの兄弟、姉妹、また母である。」

——マタイによる福音書 12章 50節

この世界は、血縁や地縁ではなく「天の父の御心」、つまり愛の行いによって一つの家族として結ばれていく。アメリカ滞在中の新島は、聖書に語られる意味での「家族」たちに支えられ、満ち足りた9年間を過ごすことができました。このような経験をした新島にとって、「キリスト教の教えに生きる」とは即ち「真の国際人として生きる」ことであり、表裏をなす考え方となりました。

「同志社国際学院」の「国際」が意味するのは「英語を駆使して世界を舞台として活躍できる人に」ということだけではありません。神を天の父としてわれわれが一つの家族になり、世界中の人々と仲良く生きていく術を子どもたちに学んでほしい。創立者 新島襄から連綿と受け継がれた同志社の良心教育に根差した願いが込められています。

## ■ 毎朝の礼拝

毎朝の礼拝を大切にしているDIA初等部。主に前奏と後奏(神さまに心を向ける)、讃美歌(神さまを褒め讃える)、聖書朗読とメッセージ(神さまの言葉を聞く)、お祈り(神さまと対話する)から成り立っています。月に一度の誕生日礼拝(誕生日を祝い、友人との出合いをくださった神さまに感謝する)や、国際部との合同英語礼拝も週に二回行われています。



## ■ 宗教の授業

全学年の児童は週に一度、宗教の授業を受けています。低学年の児童たちは、絵本や紙芝居を通して聖書物語に親しみ、神さま由来の「知恵の素晴らしさ」や、イエスさまを通じて示される「愛の大切さ」について学びます。一方、高学年の児童たちは、聖書の言葉や物語を糸口に、「いかにして人間は生きていくべきか」をキリスト教的な視点から考え、人間性を養っていきます。



## ■ 月別テーマ

「月別テーマ」に沿ってキリスト教教育年間プログラムを実施。毎朝の礼拝は祈りと讃美歌から始まり、月別のテーマや日々の聖句によってメッセージが語られます。日々の積み重ねの中で、キリスト教の教えに根差した良心教育を展開しています。

4 April	HOPE 希望	5 May	RESPECT 尊敬
6 June	COMPASSION 思いやり	7-8 July, August	PEACE 平和
9 September	HARMONY 調和	10 October	HONESTY/ INTEGRITY 誠実
11 November	GRATITUDE 感謝	12 December	JOY 喜び
1 January	FAITH/ TRUST 信頼	2 February	LOVE 愛
3 March	FORGIVENESS 赦し		

## ■ 宗教の行事



**イースター**  
イエス・キリストが十字架上の死から三日後に甦られたことをお祝いする日。DIA初等部では、自分で彩色した卵を使い、級友同士でエッグ・ハントをします。



**花の日礼拝**  
花の日は「子どもの日」とも呼ばれています。DIA初等部では、礼拝堂を花で飾り、校内で日頃お世話になっている方々に、感謝を込めて花束を渡しています。



**収穫感謝礼拝**  
収穫できたことへの神への感謝と、収穫物を貧しい人々に取り分けておくべきとの教えが込められた礼拝。DIA初等部も、寄付を行っています。



**クリスマスツリー点灯式**  
礼拝を行った後に屋外で讃美歌を歌い、校舎の壁に映されたクリスマスの映像を鑑賞した後、参加者全員で点灯のカウントダウンをします。



**クリスマスページェント**  
クリスマスページェントとは、「キリスト降誕劇」のこと。DIA初等部では毎年3年生が主人公となって取り組み、舞台の表裏で大活躍します。



**震災を憶える礼拝**  
東日本大震災を記憶に留めておくため、毎年3月に「震災を憶える礼拝」を行い、祈りを捧げます。1年間を通じて行う「おにぎり献金」と併せ、当日集められた献金は東北の施設へと寄付されます。

# Ⅱ 探究の単元

Unit of Inquiry



## UOIってなんだろう？ ～疑問を探り究める探究心～



IB(International Baccalaureate/国際バカロレア)とは、スイスに本拠地をおくIBO(国際バカロレア機構)が開発した国際的な教育プログラムです。PYP(Primary Years Programme)は、その中の初等(幼稚園・小学校)教育プログラムのこと。世界中のインターナショナルスクールを中心に導入されており、DIA初等部では開校時よりこのプログラムを取り入れてきました。現在は、国際バカロレア機構よりIB校に認定された日本では数少ない文部科学省が定める一条校として、新しい時代の教育を展開しています。

## ■ 2020年度教科横断型テーマの紹介

UOI(Unit of Inquiry/探究の単元)は、PYPの中でも中心となる教科で、子どもたちが感じた疑問を自ら「探究する」(深く知ろうとすること)をととても大切にしています。UOIでは、一年間に6つの教科横断的なテーマ(教科の枠を超える普遍的テーマ)に沿って探究し、友だちと意見を交わし合いながら学習を進めていきます。



### Who We Are

私たちは誰なのか

『Who We Are』の単元では、人間の性質や価値観、身体的・社会的特徴を探究します。「地球規模の問題を子どもたちと協力し、行動を起こすことで課題解決へと導くこと」を目的に、6年生の児童たちは、持続可能な開発目標へ少しでも貢献できる取り組みを行います。

#SDGs



### Where We Are in Place and Time

私たちはどのような場所と時代にいるのか

『Where We Are in Place and Time』の単元では、場所と時間への適応、歴史、人類による発見・探検などを探究。2年生の授業では、「市や町の文化背景、地域の様子」などをCentral Ideaに、市と町を構成する要素と役割、文化や地形とのつながりについて学びます。

#Cities



### How We Express Ourselves

私たちはどのように自分を表現するのか

『How We Express Ourselves』の単元では、創造性について考え、感情・文化などの表現方法について模索します。3年生の授業では、「多様な方法で表現される個性」をCentral Ideaに、自らのアイデンティティについて振り返り、自己を表現する大切さについて知ってもらいます。

#Expression



### How the World Works

世界はどのような仕組みになっているのか

『How the World Works』の単元では、自然界の法則を探究します。人間社会との関わりや自然界の物質の流れなど、「いかにして人と関わっているか」について学びます。4年生の授業では、空気・水・金属の性質や温度との関係性、生活する上での使用方法について追究します。

#Material behave



### How We Organize Ourselves

私たちは自分たちをどう組織しているのか

『How We Organize Ourselves』の単元では、人が作り上げたシステムとコミュニティの相互的な関連性や、組織の構造と機能を探究します。5年生の授業では、工業製品と日常生活の関わりを知り、需要と供給といった社会経済のあり方を理解することで、新たな製品の提案に結びつけます。

#Goods



### Sharing the Planet

この地球を共有するということ

『Sharing the Planet』の単元では、「限られた資源を他の生物とどう分け合うか」を探究。1年生の児童たちは「全ての生物が生き残るため、健康的な居場所を必要とする」をCentral Ideaに、生き物の住む場所や役割、自然環境と人間が作った環境における共存について学びます。

#Living things habitat

## TEACHER'S VOICE

### これからの時代を、自らの力で生きていくために

本校では知識を教え込むのではなく、子どもたちが主体的に探究し、理解した知識を実生活に活かしたり、行動に移したりできるようになることが重要だと考えています。また情報をすぐに事実と判断するのではなく、多面的に見て吟味し、自らの考えを形にする創造力や表現力といった次世代に必要とされるスキルを身につけることも重要です。探究を通して、めまぐるしく変化する社会において道を切り拓く子どもたちを育てていきたいと思っています。

### SPTカンファレンス

SPT(Student, Parents, Teacher)とは、3者間で面談のこと。子どもたちが学んだことや理解したこと、成長したことを自ら積極的に報告する場です。保護者や教員たちは、子どもたちの発表を受け、今後のサポートについて考えます。個々人に新しい目標を定め、有意義な時間を過ごすことができます。



# 教科横断型学習の紹介

様々な教科を横断的に学べるのがDIA初等部。子どもたちが主体的に行動し、国際的視野を持ってもらうための教育プログラムを展開しています。



## にほんご

多種多様な語彙力と、豊かな表現力を育む

3年生の授業『Who We Are』では、アイデンティティについて学びます。理解を深める一つの手法として、世界の民話を読み進めていきます。ストーリーに登場する国民や民族の考えを読み解き、その国独自の文化について理解を深めます。1年生の授業『How We Express Ourselves』においても、物語のキーとなるメッセージ、読み手を引き込む文章の表現方法について学びます。「自分の考えをどのように表現するのか」を探究し、オリジナリティあふれる物語作成に挑みます。



## 算数

生活との関わりを感じ、数の世界に親しむ

2年生の授業『Where We Are in Place and Time』では、土地や建物が果たす役割について考えます。実際に行っている授業は、「はこの形」学習。箱を用いて、グループ丸となって街作りを行います。実際に組み立て、議論することで、建物本来の意味を知ることができるのです。また、「長さ」の学習では、植物(トマト、キュウリ、ピーマン)の成長をものさしで測ったり、風力車の進む距離を記録したりと、生活と密接に関わりながらUnitの内容を深めています。



## Music

新たな視点をもたらす音楽の授業

3年生の授業『Where We Are in Place and Time』では、道具の歴史と人々の暮らしとの関係性について学びます。DIA初等部の授業では、「楽器の移り変わり」に着目し、楽器本来のあり方について理解を深めていきます。音を奏でることへの変遷はもちろん、何千年という歴史の中で、変化し続けてきた楽器ならではの特色を突き詰めていくのです。Musicでの探究が、時間の流れという新たな視点を子どもたちにもたらし、学びを広げていきます。



## HFL

学んだことから、自分たちの生活を振り返る

5年生の授業『Who We Are』では、体の各器官と、その働きについて考えます。消化管の学習では、消化に良い食材・悪い食材から消化管の働きについて明らかにしていきます。6年生の授業『Sharing the Planet』では、エネルギーと生活とのつながりを探究。コンロの種類とその特徴を学び、エネルギーの効率の良さやエコにつながることを実感します。その学びから自分たちの生活を振り返り、日常に対する行動へと移していくのです。



## English

英語を学ぶことで、自分と世界をつなげる

6年生の授業『Who We Are』では、伝統と革新について学びます。その一環として、持続可能な開発目標(SDGs)について触れ、未来をどう切り拓くのかについて子どもたち自身で考えます。知識として知るのではなく、原文を読むことで強い関心を持ち、自分ごと化することにも重きを置いています。その学びが各Unitの学習へとつながり、PYPエキシビジョン(P.12)のやる気を高める原動力となるのです。



## Art

Art作品を自ら作成し、販売するまでのプロセスを知る

5年生の授業『How We Organize Ourselves』では、工業製品がどのように製造・販売されるのかについて学びます。具体的には、DIA初等部のグッズを作成し、販売するためのプロジェクトを立ち上げます。必要なデザインを考え、宣伝方法についても自分たちで考えます。例えば、プラスチック板を使ったハンコを作成し、子どもたちで販売を行います。実際の売れ行きを分析し、お金に換える難しさを実感します。



## P.E.

心身と実生活を結びつけるきっかけ作り

4年生の授業『Who We Are』では、人や動物の体の構造や生命の誕生を探究します。生命の誕生では、男女の体の変化を学び、異性に対する気遣いについて考えます。一方、授業で骨格と筋肉の仕組みについて学んだ後、「どこを鍛えれば、カエル倒立や立ち幅跳びが上手くなるのか」に関して試行錯誤を繰り返していきます。DIA初等部では学びを実践へと移すことを重要視しており、児童たちは心身と実生活とのつながりに気付いていきます。



## 特別活動

社会に貢献し、必要な存在であることを認識

代表委員会では、社会を支える組織の学びと、共同でフードバンク活動を行いました。フードバンクとは、まだ食べられるのに、様々な理由で処分される食品を、施設や人に届ける社会福祉活動のことを指します。一方、掲示委員会では、卒業生へのメッセージを全校児童に呼び掛け、「メッセージ桜」を作成しました。どの活動においても学校全体・周辺地域への社会貢献を掲げ、社会にとって必要な存在であることを子どもたちは再認識します。

## ICT教育・設備

全教室にプロジェクターを設置し、各種デバイスの映像をワイヤレスで投影することが可能な環境を整えています。また、2014年度より児童用iPadを導入し、100台が情報収集やプレゼンテーション、英語学習といった様々な場面で有効活用されています。さらに3年生以上の児童には、一人に一台iPadを購入。自分専用の端末を持つことで授業内での活用の幅を拡大しています。DIA初等部ではこういったデジタル環境を日常に取り入れることで、IoT(Internet of Things)からIoE(Internet of Everything)へ急速に進化するこれからの社会をリードする人材を育成します。



## 教科別週当たり授業時間数

は、英語で学ぶ授業です

教科	一般小学校での学習科目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
探究の単元/UOI	UOI(J):Unit of Inquiry in Japanese	6	6	7	7	7.5	8.5
	UOI(E):Unit of Inquiry in English	2	3	3	3	3	3
にほんご	国語	4	4	3	3	2.5	2.5
算数/Math	MIJ:Math in Japanese	3	3	4	4	4	4
	MIE:Math in English	3	3	3	3	3	3
English	外国語	4	4	4	4	3	3
Art	図画工作	2	2	2	2	2	2
Music	音楽	2	2	2	2	2	2
P.E.	体育	3	3	3	3	2.5	2.5
HFL	家庭科					1.5	1.5
宗教	道徳	1	1	1	1	1	1
特別活動	特別活動				1	1	1
合計		30	31	32	33	33	34
標準時数		25	26	27	28	28	28
日本語		14	14	15	16	17.5	18.5
英語		16	17	17	17	15.5	15.5
英語比率		53%	55%	53%	52%	47%	46%



# UOIを通じて得た経験

探究トピック 沖縄のサンゴ問題

世の中に役立つActionを考え、実践したいという思いが芽生えました

上田 莉央さん | 5年生

印象に残っているのは、プレゼンテーションのトピックでもあった沖縄のサンゴ問題です。歴史的・法律的観点から各国の対応や人々の認識を調べ、その深刻さを実感。解決のためのActionとして、この問題を広く知ってもらうためのポスター作成と掲示を行いました。こうした経験を重ねることで、問題を理解し、解決方法を考え、行動を起こす力が培われたと思います。またチームで取り組むプロジェクトを通じて、コミュニケーション能力も身につきました。探究の学びを通して得た力を活かし、広く社会に貢献することが私の目標です。



探究トピック 犬のボディランゲージ

探究の学びで得た力を糧に、信頼される医師を目指します

辻内 隆晟さん | 6年生

PYPエキシビションのトピックに選んだのは「犬のボディランゲージ」。犬の訓練所を見学し、訓練士や飼い主の方にインタビューを行いました。5年生の時には医師や看護師の方に話を聞き、「なぜ胃液で胃が溶けないのか」など人体について探究。プレゼンテーションソフトを使って発表したことが印象に残っています。調べてまとめる、分かりやすい発表をするといった社会人として必要な力が身につきました。将来の目標は、地域の人人々に信頼される内科医になること。活躍できるよう、探究する姿勢を忘れず専門性を極めていきたいです。

探究トピック 世界の料理とフードロス

医療を通じて世界に貢献するという将来の目標が見つかりました

河原 舞奈さん | 6年生

高学年になると、日本語と英語の両方で探究型学習を行います。様々な文献を通じて幅広い知識を身につけることができたほか、ICTを駆使して発表するスキルも習得できました。特に印象深かったのは、4年生の時に選んだ「マザー・テレサの生き方」と、PYPエキシビションのトピックだった、「貧富の差から生じるフードロス」です。これらを通じて、困っている人々の役に立ちたいという思いが強くなっていきました。将来は医療従事者となり、英語力やコミュニケーション能力を発揮することで世界に貢献したいと考えています。



# PYP エキシビション

The culmination of six years of inquiry and student agency

One of our important goals at DIAES is for our sixth grade students to present a bilingual exhibition which represents their learning in the PYP.

The exhibition is an opportunity for students to synthesize the essential elements of the PYP and share them in English and Japanese to the school's Learning Community.



探究トピック例

- Gymnastics / 器械体操
- Leukemia / 白血病
- Sengoku warriors around Lake Biwa / 琵琶湖周辺の戦国武将
- Paper / 紙
- How 5G will change the world!?! / 5Gで世界はどう変わる!?
- Children who cannot go to school / 学ぶことができない子どもたち

児童が主体となる探究の成果の発表会

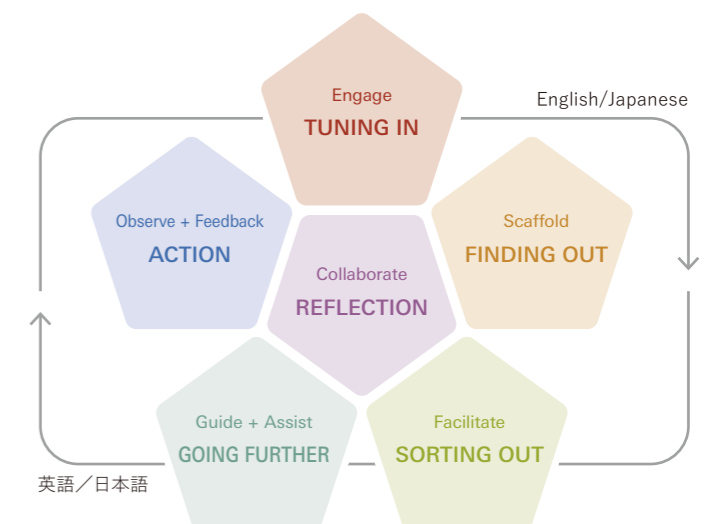
6年生の最終の大きな目標の一つにエキシビションと呼ばれる日英両言語で発表する機会を設けています。これまでに取り組んできたPYPの探究型学習で学んだ内容を、子どもたちが発表する場。DIA初等部の子どもたちが「Learning Community / 学びの共同体」の中で日英両言語を使って多くの事柄を発表する、最終ステージです。

## 発表までの流れ

2020年度の『How We Express Ourselves』の教科横断的テーマ「人々の情熱や才能は、行動を引き起こす原動力となる」をCentral Ideaに、児童一人ひとりの興味・関心のある分野をトピックとし、社会問題と関連付けて探究を行いました。トピックに対してKey Concept (重要な概念)を用いて問いを作成し、情報収集を行います。収集した情報を基にして、「Lines of Inquiry (探究の流れ・ポイント)」を作成し、自身の考えを整理していきます。そして、問題解決へとつながる行動を起こし、身近な人々や在校生、社会の人たちに影響を与える人となるのです。その一連の流れ全てがPYPエキシビションまでの発表のプロセスとなります。



## Inquiry Cycle of Exhibition



2020年度実施例

- 2020年9月 ..... TUNING IN トピックを決定
- 10月~11月 ..... FINDING OUT / SORTING OUT 問いを作成し、情報収集・整理
- 12月 ..... GOING FURTHER 発表方法の検討
- 12月/2021年1月 ... ACTION 発表、フィードバック
- 2021年1月上旬~中旬 ..... GOING FURTHER 掲示物の作成、発表練習
- 1月下旬 ..... ACTION エキシビション発表
- ~2月随時 ..... REFLECTION 進捗や発表後の振り返り

# DIA Library



## 総合的なサポートを通して、 多様な学びをつなぐ結節点

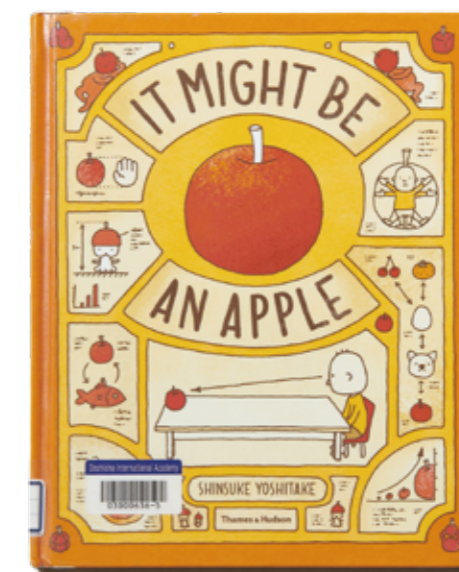
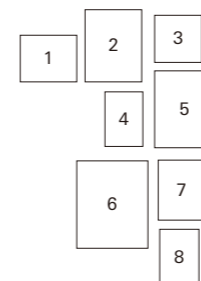
明るく開放的なデザインのDIA Libraryには、日英合わせて2万冊近くの図書資料を配架。子どもたちが日常的に日・英両言語の読み物や資料に触れる環境になっています。自然な形で日本語・英語の両方に親しむことができる、DIA初等部のバイリンガル教育の重要な拠点です。

様々な教科がつながるUOI(Unit of Inquiry／探究の単元)でも、Library(学校図書館)が担任の先生やGANET(Grade Attached Native English Teacher／学年付外国人教員)と連携。UOIに関連する資料を提供するだけでなく、子どもたち一人ひとりの「知りたい!」といった気持ちを大切にしながら、探究型学習のお手伝いをしています。毎日の生活の中で、子どもたちは「疑問」をもち、DIA Libraryにやってきます。スタッフの役割は、子どもたちが図書資料を通して自分の疑問に対するアイデアの「発見」をサポートすること。ヒントとなる資料を案内したり、次のステップにつながるよう導いたりします。子どもたちの「なぜ?」が「そうなんだ!」に変わる。そして「もっと知りたい!!」につながる場。それがDIA Libraryです。

## 多様なジャンルの図書資料が 子どもたちを成長させる

DIA Libraryは「知的習得」に加え、「自ら学ぶ」といったIB(International Baccalaureate／国際バカロレア)の教育理念に基づき、DIA初等部の子どもたちの学びの中心となっています。日本語の読み物だけでなく、専門的な英語の冊子や小説、そして絵本と、子どもたちの学びを支える多様なジャンルの図書資料が備わっています。

- 1.「One Gorilla: A Magical Counting Book」Mathew Price (著), Atsuko Morozumi(イラスト), Steve Augarde (イラスト)
- 2.「Science Encyclopedia: Atom Smashing, Food Chemistry, Animals, Space, and More!」National Geographic Kids (著)
- 3.「Lost and Found」Oliver Jeffers (著)
- 4.「エルマーの冒険」ルース・スタイルス・ガネット 著 / ルース・クリスマン・ガネット挿絵 / わたなべ しげお訳
- 5.「The MFA Handbook」Gillian Shallcross (著), Malcolm Rogers (序論)
- 6.「It Might Be An Apple」Shinsuke Yoshitake (著)
- 7.TIME for KIDS (雑誌)
- 8.「My Father's Dragon」Ruth Stiles Gannett (著)



# III バイリンガル教育

Bilingual Education

## What role does English play in students' lives at DIAES?

Students at our school learn more than just the English language, students at DIAES learn through the English language. This means that students acquire skills, develop understandings of concepts, demonstrate attitudes, gain knowledge, learn subject matter, and develop in ways that are not purely linguistic.

Our school recognizes the importance of English as a global language, and believes that the fostering of bilingualism is critical for our students' ability to play a leading role in the world's future. More than half of all classes are taught in English, and students have the unique experience of meeting and studying with teachers from around the world.

DIAES provides a learning environment that is suitable for children that are either beginning or continuing their study of English. In lower elementary, the aims are to develop and extend on students' basic English language skills in speaking, listening, reading, writing and phonics. In upper elementary, students use spoken English within the Unit of Inquiry to explain, inquire and compare. Students are also taught in English about a range of topics and subjects such as art, music and P.E. A variety of resources are used which include, Oxford International English, Raz-Plus, Science A-Z, and Mathletics.



## すべての子どもたちにとって、 素晴らしい英語学習環境を

DIA初等部で英語の果たす役割は、とても重要です。子どもたちは、言語としての英語を学ぶにとどまりません。英語という言葉(ツール)を使って学習を進めているのです。子どもたちは授業の中で様々なスキルを英語で身につけ、ものごとの概念理解を深めます。さらには実践活動をふまえ、学習への態度や知識、教科内容を学ぶため、単に英語を学んでいるというわけではないのです。

私たちは世界共通言語とされている英語を大切に考えています。DIA初等部のバイリンガル教育は、子どもたちが将来世界をリードする際に必要となる力を育てています。DIA初等部では半分以上の授業が英語で実施されており、子どもたちは世界中からやってきた先生たちと授業を通じて出会い、学びます。このような学習環境はDIA初等部でしか得ることができません。

DIA初等部ならではの教育環境は、英語の学習を始める子どもたちにも、また幼少期から英語を学んできた子どもたちにも、どちらにとっても素晴らしいと言えます。まず、低学年ではスピーキングやリスニング、リーディング、ライティング、フォニックス(音声と綴りの関係性)といった英語の基本技能を身につけることを目指します。さらに高学年では、身につけた英語を使って説明をしたり、調べたり、比較したりと、探究のあらゆる場面で会話力を高めながら、様々な分野のトピックや各教科の内容を英語で学習します。また、DIA初等部では「Oxford International English」や「Raz-Plus」、「Science A-Z」、「Mathletics」といったバラエティに富んだ教材も活用しています。

# バイリンガル教育を通じて得た経験



STUDENT'S VOICE

**国際的に活躍する検察官になるという夢に、  
一歩近づくことができました**

加藤 聡一郎さん | 6年生

英語を使って様々なことに取り組んできました。英文による物語作成はその一つ。アイデアがどんどん浮かび、夢中で書き上げたことを今でも覚えています。外国から日本に伝わった文化について学んだ授業では、火縄銃やお茶について調べました。また、貿易をテーマにしたプレゼンテーションにも挑戦。海外の製品が日本に輸入されるまでのプロセスをスライドにまとめ、友人にアドバイスをもらいながらスピーチを練習し、準備を重ねて本番に臨みました。これらを通じて、語彙力と文章表現力を鍛えることができたと感じています。将来の夢は検察官になること。DIA初等部で得た英語力を発揮し、国際犯罪の捜査や国際裁判に携わりたいと考えています。



STUDENT'S VOICE

**英語によるコミュニケーション能力をもって、  
笑顔あふれる未来を実現する架け橋に**

森 幸桜さん | 6年生

英語の4つの科目の中で大好きなのが、自分でテーマを選びプレゼンテーションを行う授業。自由に考えて、完成させた物語を披露し合います。友人たちの様々な意見を聞くことで、新しい発想に刺激されます。また、皆で話し合い、意見をまとめ発表する経験は、英語で考えを伝える際の自信にもつながったと思います。白血病に関するエキシビジョンに向けてはその英語力を活かし、国内外の支援団体にアンケート調査を行ったり、多くの人に命の大切さを伝えるための絵本を作ったりもしました。6年間で養った英語によるコミュニケーション能力をもって、世界の子どもたちが平等に学び、笑顔で過ごせる未来の創造に貢献していきたいです。



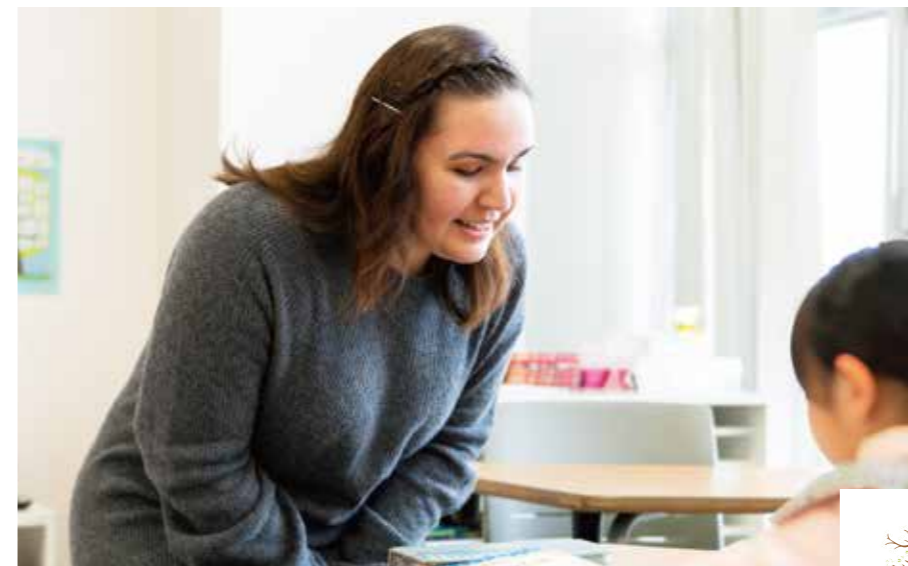
PARENT'S VOICE

**自ら考える力に裏打ちされた、  
確かな英語力が自然と身につきます**

西村 由美さん | 保護者

日本語・英語の両方を日常的に使う環境の大切さを実感したのは、息子がDIA初等部に通っていた時のこと。海外育ちの息子を含め皆が、必要に応じて日本語と英語とを使い分け、しっかりとした文章構成で書いたり話したりしていたのです。これこそがバイリンガル教育の魅力だと気づき、娘もここで学ばせることを決意しました。英語の授業を通して、表現力が豊かになったと感じています。4技能のみならず、考える力が培われている証でしょう。世界中の子どもたちと同じ教材で、言葉の壁を感じることなく学ぶ姿は、頼もしい限りです。

# 英語ランゲージサポート



## English Language Support based on the concept of equity, not equality

Students at DIAES come from a variety of backgrounds and experiences.

Some students have lived or have travelled overseas.

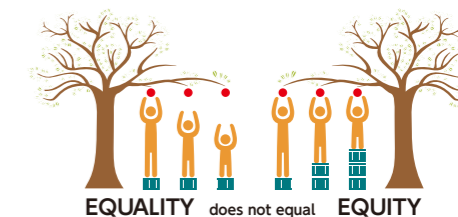
Some students come from Japanese-speaking kindergartens, and some from English-speaking kindergartens.

The Language Support programme at DIAES has been developed so that student's (regardless of their background) can gradually access all curriculums taught in English at DIAES.

Language Support is provided to students based on the concept of equity, not equality. A child is provided with Language Support until they acquire the minimum skills needed to access mainstream learning (classes).

When students begin Year 1 at DIAES their English skills are assessed using a variety of diagnostic tools (tests). For example, students are assessed for reading, phonics, and sight words. Based on these assessments, students may be recommended as needing Language Support. However, for children entering our school in Grade 1 who have no prior English learning experience, it is generally expected that they will develop English literacy, classroom language, and vocabulary that allows them the minimum skills needed to access mainstream learning within 1-2 years.

When a student, based on assessment, is identified as needing language support, a set of strategies and achievable targets are developed by the teachers. Students are helped to develop appropriate skills to support their own learning.



## 公平に授業が受けられるよう “ランゲージサポート”を実施

DIA初等部に通う子どもたちが育ってきた環境や言語背景は、バラエティーに富んでいます。海外生活を体験した子どもたちをはじめ、インターナショナル幼稚園で学んだ子どもたち、日本の一般幼稚園からきた子どもたちと様々です。本校は、充実したランゲージサポートプログラムを展開し、子どもたちの入学前の言語背景にかかわらず、英語での授業全てを段階的に理解できるようにしています。ランゲージサポートは平等ではなく、公平な授業を行うというコンセプトのもとに実施しているものです。それぞれが基本的な力を身につけ、授業についていけるようになった時点でサポートは終了します。ランゲージサポートが必要かどうかの判定については、入学後に子どもたちの英語力を測る各種診断テストを利用して行います。ランゲージサポートは、リーディングやフォニックス、サイトワードの評価をもとに進めます。1年生の入学の時点で英語の学習経験がない子どもたちは、英語の読み書きや授業でよく使われる単語や言い回しを1、2年かけて習得します。ランゲージサポートが必要と判断された場合は、教員とともに、子どもたち一人ひとりの学習方法と到達目標を設定し、自主的に学ぶ力が身につけられるようにサポートを行います。

# 初等部の一日

健やかに、たくましく  
たしかな成長と愛情を感じながら

子どもたちが元気いっぱい輝く日々を過ごせるよう、DIA初等部の教職員たちはひとつのチームとなって、その成長に寄り添っています。担任の先生をはじめ、色々な国から来ている外国人の先生たちが、子どもたちの才能を刺激する様々なスタイルの授業を展開。子どもたちは言語だけではなく、幅広い文化や知識、考え方に触れながら、社会生活に生きる教養や、グローバル社会で求められる素養を身につけていきます。



Lunch  
わが家の味を、  
食文化として大切に



一人ひとりに文化的背景があるように、食文化も家庭ごとに異なるものです。DIA初等部では、各家庭の食文化を尊重し、昼食はお弁当を持参してもらっています。お弁当の準備が難しい場合には、ランチオーダーシステムやパンの販売(週2回)も利用可能です。

# 1年の行事

カナダで学ぶ、五感が育つ、  
多様な行事

みんなで力を合わせて頑張ったり、豊かな自然や文化に触れたり、DIA初等部には、1年を通じて様々な行事があります。イースターやクリスマスをはじめとした宗教関連の行事はもとより、思いきり身体を動かすスポーツデーやタレントショーなど、DIA初等部ならではの行事もあります。さらに、ハロウィーンやきずな祭など、保護者のみなさままで組織される「きずな会」が中心のイベントも。ラーニングコミュニティとしてみんなで行事を考え、楽しみながら実施されています。



※新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、2020年度の年間行事は一部中止とさせていただきます。

- 4月**  
April
- 始業礼拝
  - 入学式
  - イースター
  - クラスコミュニケーションタイム
  - 中学校進学説明会(6年生)

- 5月**  
May
- 水泳講習
  - カンファレンス(二者面談)

- 6月**  
June
- 水泳講習
  - 私小連音楽会
  - 2年生宿泊学習
  - 花の日礼拝
  - 良心探究ウィーク・特別礼拝
  - 4年生宿泊学習

- 7月**  
July
- 参観・学期報告会
  - 終業礼拝
  - 夏季休業

- 8月**  
August
- 夏季休業
  - 始業礼拝

- 9月**  
September
- 6年生修学旅行
  - 3年生宿泊学習

- 10月**  
October
- 1年生宿泊行事
  - 参観
  - スポーツデー
  - ハロウィーン

- 11月**  
November
- 5年生宿泊学習
  - 収穫感謝礼拝
  - 良心探究ウィーク・特別礼拝
  - クリスマスツリー点灯式
  - 創立記念日(祈祷会)
  - きずな祭

- 12月**  
December
- 参観・学期報告会
  - 同志社英語プレゼンテーション大会 立石杯
  - クリスマス礼拝・ページェント
  - クリスマス燭火礼拝
  - SPTカンファレンス(三者面談)
  - 冬季休業

- 1月**  
January
- 冬季休業
  - 始業礼拝
  - 校祖永眠の日(祈祷会)
  - エキシビション

- 2月**  
February
- タレントショー
  - 土曜参観・学期報告会

- 3月**  
March
- 震災を覚える礼拝
  - 6年生を送る会
  - 卒業式
  - 修了礼拝
  - 春季休業



## 学びの共同体

“Learning Community” formed by students, teachers and parents

At DIAES, we hope that our educational goal will be shared not only by our students, but also by all adults (teachers and parents) connected to our school. For this reason, we have built a “Learning Community”.

生徒・教員・保護者、三者が形作る  
“Learning Community”(学びの共同体)

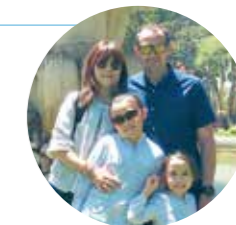
DIA初等部では、子どもたちはもちろんのこと、関係する全ての大人たち(教員・保護者)の間で教育目標が共有され、“Learning Community”(学びの共同体)を形成しています。保護者の方々にも本校の教育を知り、参画していただく機会を多数設けています。

“きずな会”と呼ばれる保護者会のサブグループでは、教員と連携し一部学校行事の運営を担当。また、聖書の会を開催したり、学校主催のPYP(Primary Years Programme/国際バカロレアの初等教育プログラム)学習会に参加したりしながら、DIA初等部の教育を体験し、理解を深めていただいています。UOI(Unit of Inquiry/探究の単元)では、保護者の方がゲストスピーカーとして教壇に立ち、児童からのインタビューに答えるなどの取り組みを実施。積極的に教育活動にご参加いただいています。

PARENT'S VOICE

活動する姿をもって  
大切なことを伝えたい

保護者  
ワイト ジェレミーさん



“Learning Community”の一員として、保護者自身ができることを考え、先生方と協力し合い、一生懸命に活動する。その有意義なひと時は、親として子どもたちに、自ら考えて学び、責任を持って行動することの大切さを伝える貴重な機会であると考えています。これまで、宿泊行事のサポートに携わり、協働する重要性なども伝えてきました。学びの共同体として、一つひとつの取り組みが、自分の道を切り拓くことのできる人へと成長する一助となることを心から願っています。



# 宿泊行事・ 修学旅行

大自然や社会が教室になる、本物の学び  
～校外学習／宿泊学習～

子どもたちの成長につながる学びの舞台は、学校での授業だけではありません。DIA初等部では、人や自然とのふれあいや、新たな体験への挑戦などを通して学ぶ機会も大切にしています。いずれの学年においても、各Unitの研究の機会として、校外学習を採用。現地へ出かけて行き、自分の目で見て、耳で聞いて、知りたいことを知るといふ、本物の出会いと学びを重視しています。

また、1年に1回、宿泊学習も実施。通常の学校生活では経験できない特別な体験を通じて、かけがえのない学びと成長が得られます。6年生では、初等部の集大成となる修学旅行が待っています！



4年生宿泊学習 美山・宮津(京都府)



3年生宿泊学習 川上村(奈良県)



5年生宿泊学習 東京・安中(群馬県)



1年生宿泊学習 DIA



2年生宿泊学習 琵琶湖(滋賀県)



## School Trip to the United States

学校で培った語学力を発揮して、アメリカ、ボストンで世界を学ぶ  
～6年生修学旅行～

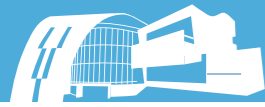
アメリカ、マサチューセッツ州ボストンへの6泊8日の旅。それがDIA初等部の修学旅行です。現地で、様々な活動体験に挑戦します。旅の中では、同志社の創業者、新島襄の渡米の軌跡を追体験。アメリカを代表する名門校であり、新島の留学先でもあったアーモスト大学や新島がキリスト教信仰を深めたオールドサウス教会などを訪問します。

また、「Creating and responding to art develops understanding of ourselves and the world around us／芸術作品の制作活動や鑑賞を通して、私たちは自分自身をさらに知り、自分の周りの世界についての理解を深める。」をテーマにしたUnit3の学習を深めるために、エリック・カール絵本美術館やボストン美術館も訪れます。その他にも、現地IB校で現地の小学生と交流するなど、多彩な活動が計画されています。

### 宿泊学習(2019年度の実施例)

	行き先	期間	ねらい	関連の探究の単元	主な活動
1年生	DIA校内	1泊2日	学校周辺で植物について学ぶ。	Unit3 How the World Works	いもほりと観察、学校周辺への散策
2年生	琵琶湖(滋賀県)	1泊2日	琵琶湖の水生生物について学ぶ。	Unit2 Sharing the Planet	水生生物の学習
3年生	川上村(奈良県)	2泊3日	自然の中で芸術に触れる。	Unit3 How We Express Ourselves	「匠の聚」での芸術体験
4年生	美山・宮津(京都府)	3泊4日	京都府の産業について学ぶ。 水の循環を学ぶ。	Unit2 Sharing the Planet	林業・農業・漁業体験/ 由良川の源流から河口、海までの観察
5年生	東京・安中(群馬県)	3泊4日	日本の政治・産業について学ぶ。 新島襄の生涯について学ぶ。	Unit4 Where We Are in Place and Time	国会・最高裁判所等の見学/ 新島襄ゆかりの地を訪問、富岡製糸工場見学
6年生	アーモスト・ボストン (アメリカ)	6泊8日	新島襄の足跡をたどりながら、 アメリカの歴史・文化・生活を体感する。	Unit3 How We Express Ourselves	現地IB校との交流/ 美術館でのワークショップ参加/教会訪問

※新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、2020年度の宿泊行事は一部中止とさせていただきます。



Campus | キャンパス外観



Ground | 校庭



Chapel | 礼拝堂



# 子どもを育てる 豊かな教育環境

穏やかな自然に抱かれた、  
大らかな成長のステージ  
～DIA初等部ならではの豊かな教育環境～

春はウグイスやセキレイのさえずりが響き、穏やかな風がそよぐ。四季のうつろいを肌で感じられる、豊かな自然に抱かれた南京都が学びの舞台。休み時間には、遠くに緑の山々を望む清々しいグラウンドで走り回る子がいれば、中庭で虫やカエルを追いかける子、クローバーの冠を作って楽しむ子も。一人ひとりが思い思いの時間をのびのびと過ごしています。

関西文化学研都市に位置するDIA初等部は、研究施設をはじめとした先進的な建築が並ぶ周辺環境に溶け込む、美しいデザイン。清潔感のある白をベースに、赤や青のビビッドな色彩がアクセントとなっています。施設・設備面では、探究型学習など国際的な教育を効果的に実践するため、普通教室2室をつなげられる建具システムを採用するなど、随所に工夫を盛り込んだ、こだわりの設計となっています。アイデア次第で様々な組み合わせ方ができる台形の机も、特徴のひとつです。

Student Care Center | 保健室



Art Room | 図工室



Science Room | 理科室



Music Room | 音楽室



Gymnasium | 体育館



Library | 図書館



Kizuna Hall | きずなホール



Playground | 中庭・遊具



TIE Room | TIEルーム



Homeroom | 普通教室





# 卒業生・保護者からメッセージ

Message from graduates and parents



森 天秀さん  
2017年度卒業生

“ 探究型学習や  
英語学習で得た力が  
自信となっています ”

6年間で一番頑張ったのは、探究型学習です。エキシビションのテーマは「活字離れ」。2万冊以上の蔵書を誇るDIA Libraryは常に児童たちであふれていて、活字離れが進んでいるという実感は得られません。そこで様々な機関を対象にアンケートを実施し、その結果を分析。自分なりの意見を発表しました。こうした経験が、同志社国際中学校での学習や、スピーチ・ディベートといった課題などで生きており、高評価にもつながっています。また6年生の時、修学旅行でアメリカの子どもたちと意思疎通を図ることができ、英語力に自信を持てるようになったことも大きな収穫。現在、TOEFLのスコアアップと英検1級合格を目標に、日々レベルアップに励んでいます。



山田 海統さん  
2014年度卒業生

“ 英語力を磨きたい。  
心からそう思える  
環境が最大の魅力 ”

自由な校風とグローバルな視野を育む環境に惹かれ、公立小学校から編入しました。それまで、英語が理解できないという事実を気にしたことすらなかった私。転機となったのはDIA初等部での、英語を母語とする人たちとの出会いです。「意思疎通を図ることができるになりたい」という思いが芽生え、英語学習に力を注ぐようになりました。大きな魅力は、算数や理科も英語で学び、より実践的な英語力を育てるところです。進学した同志社国際中学校・高等学校では習熟度別のクラス編成で英語を学びますが、私はハイレベルなクラスに在籍。DIA初等部で早くに英語学習のスタートを切ることができ、本当に良かったと感じています。



野村 史枝さん  
保護者

“ グローバルな視点を  
持ち、成長するための  
基礎を築ける環境 ”

入学の決め手となったのは、「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」、すなわち、日常的に英語を使う環境と、視野を広げ興味・関心を育む教科横断的な学びです。DIA初等部を卒業した中学生の兄は自分の考えをしっかりと持っており、探究力が身についたと感じています。また在校生である娘は、英語の発音がとてもきれいで、皆で話し合う機会を通じて、自分の意見を持ち表現する力や協調性はもちろん、興味を持ったこと、疑問に感じたことに対して自分で調べる姿勢が自然と養われています。保護者も参加して作り上げる季節ごとのイベントは、私にとって子どもと一緒に成長していける大切な機会。今後もたくさんの関わりを持ち、見守っていきたくと思っています。



新井 愛梨さん  
2017年度卒業生

“ 経験の全てが  
積極性に満ちた今に  
つながっています ”

全力を注いだエキシビションが心に残っています。『UNICEF』や『Save the Children』をテーマに、国際連合の方へのインタビューや、チラシの作成・配布に挑戦しました。今、授業で積極的に発言したり、堂々と発表したりできているのは、この経験があったからだと思っています。また現在、プロを目指して頑張っているテニスで役立っているのが、DIA初等部で磨いた英語力とコミュニケーション能力。特に海外遠征の際には、現地のコーチの指示を日本人の仲間に伝えたり、トラブル解決に向けて双方の意見を聞いたり、現地の選手と仲良くなったりと、様々な場面で活かされています。DIA初等部で学んだからこそ今の私がある。日々、そのことを実感しています。



小林 愛さん  
2014年度卒業生

“ 6年間で身につけた  
英語力が、日々の  
学びの原動力に ”

DIA初等部を志望したのは、それまで住んでいたシンガポールで培った英語力を、さらに伸ばせる環境だと感じたからです。魅力は大きく三つあります。ネイティブの先生が身近にいるため、英語に触れる機会が多いということ。また、自分に合ったレベルで教えてもらえるので、とても分かりやすいということ。そして、算数など他の教科も英語で学ぶことで、幅広い英単語を習得できるということです。英語があまり得意ではなかった私ですが、6年間で大きく伸ばすことができました。今はそのレベルをキープするために、友人と英語で話したり、授業に積極的な姿勢で臨んだり、日々努力しています。将来に活かせるよう、これからも磨き続けていきたいです。



横田 由紀絵さん  
保護者

“ 体験の一つひとつが  
未来へとつながる  
娘の宝物です ”

建学の精神である良心教育と探究型学習に魅力を感じ、姉妹でお世話になりました。個性を伸ばしてくれるDIA初等部の教育によって、娘は徐々に積極的になり、様々なことに挑戦するようになったと感じています。下の娘は4年生の時、英語プレゼンテーション大会に出場。英語の文章を自分たちで作成し、納得するまで推敲する姿に、成長を実感しました。校外学習や宿泊学習で五感を働かせながら学んだり、UOIでゲストティーチャーの貴重なお話を聞いたり、心に響く体験の数々は将来の糧になると信じています。学びの共同体を形成し、娘たちが成長していく姿をそばで見守る機会を与えてくださった先生方に、感謝の気持ちでいっぱいです。

# The fundamental principle of Doshisha's education is "conscience".

## 同志社の原点、それは良心

同志社教育の原点は「良心」といえます。創立者の新島襄は9年間におよんだ欧米での生活を通して、キリスト教が世界に与えた精神的感化の大きさを体得しました。そのひとつが「良心」です。

新島はある学生への手紙の中で「良心の全身に充滿したる丈夫の起り来らん事を」（良心が全身に充滿した青年が現れることを望んでやまない）と書いています。この一節こそが、新島が期待する生徒像・学校像であったのです。この言葉は法人内諸学校等にある「良心碑」に彫られ、その9基目の碑が本校に建てられています。



### 同志社の教育理念

The Educational Philosophy of the Doshisha

#### キリスト教主義

精神と品行を陶冶する活力を身につけ、知識の修得だけでなく、良心の涵養を促す

創立者新島襄は、周りに流されるのではなく、自分なりに正しい考えを持ち、変革を自ら実行する人物を育成しようと考えました。また、このような「一国の良心」となる人物は「キリスト教主義」によって育まれると信じ、キリスト教主義に基づく教育を同志社の基本的な方針として実践してきました。

#### 自由主義

自ら行動する力を育み、一人ひとりに自分の可能性を気づかせる

同志社に受け継がれる、個儼不羈(てきとうふぎ)という言葉は、才気がすぐれ、独立心が旺盛で、常軌では律しがたいことを意味します。同志社では一方的に指導するというスタンスではなく、生徒の可能性を信じて、個性を大切に、一人ひとりが自発的に行動して自分の力を発揮できるよう努めてきました。



同志社の創立者 新島襄



良心碑

良心ノ全身ニ  
充滿シタル丈夫ノ  
起り来タルコトヲ

同志社の「表札」とも言うべき良心碑は、同志社教育のかなめとなる目的を表しています。

## 連綿と続く歴史の中で磨かれてきた独自の教育理念。

### その実現に向かって、志は一つになる。

「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」とは、同志社における教育理念です。「一国の良心」ともいうべき人物を養成するために始まった同志社の教育は、時代が移り変わろうとも、その理念を変化させるのではなく、より深く見つめ、問い直すことによって踏み固め、いまに受け継いできました。

変化の速い時代だからこそ、時代に流されるのではなく、確かな理念を見つめて取り組んでいく。私たち同志社はその実現のために、志を一つにして次代へ向けて邁進していきます。

#### 国際主義

外国語を話せるだけでなく、異なる価値観を受け入れ、そこから「何か」を見出せる人を育てる

新島襄はアメリカでの勉強や視察を通して教育の重要性に目覚め、同志社を設立しました。そのような歴史を持つ同志社では世界に目を向けて学ぶ姿勢を重視、単にコミュニケーションの道具としての外国語を学ぶだけでなく、世界の文化にふれ、お互いの違いを認め合う学びを実践しています。

## From the Head of Schools

The Doshisha Eigakko (Academy) was born in the home of Joseph Hardy Neesima, with eight students and two teachers in 1875. Although about 140 years have passed since then, Neesima's ideal philosophy, "education of conscience", breathes in all the Doshisha schools' education from kindergarten through university. Based on Doshisha's educational philosophy of "Christian principles", "Liberalism", and "Internationalism", Doshisha International Academy (DIA) was established in 2011 to pursue primary education from a global perspective. As it is located in the Kansai Science City, we received support from Kizugawa City as well.

Not only is Doshisha International Academy's founding spirit to nurture people who put their conscience into practice, but DIA Elementary School also provides two characteristic classes. The first feature is that over 50% of all classes are conducted in English. This educational style is authorized by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology as a school which offers a special bilingual curriculum. The second feature is inquiry-based learning. The aim of which is for children to understand the world around them more deeply. "Each and every person is unique and valuable", are the words that Neesima always spoke to people. People from Doshisha, who Neesima loved and we aim to foster, are persons filled with a heart of compassion for others, are always close to the weak, and have a global nature.

In 1864, during the turmoil of the late Edo period, Joseph Hardy Neesima turned his attention to the world and left for America, defying an overseas travel ban. In March 1872 in Washington, Neesima, who studied at Amherst College, met Tanaka Fujimaro, the Education Minister and a member of the Iwakura Mission, and they departed New York together in May to inspect the educational institutions in Europe. In the founding of the Doshisha and Doshisha University: how the Doshisha was established, it is written that "together we inspected the most important educational institutions in America, from primary to college grade, after which we went over to Europe, visiting Scotland, England, France, Switzerland, Holland, Denmark, Germany, and Russia. In these countries, I made a careful study of the schools, their organization, systems, and administration. In particular, I was deeply impressed by the perfection of their research". Doshisha's educational philosophy is "Christian principles", "Liberalism", and "Internationalism". Doshisha was born to practice "Internationalism", which is to see and understand the world with a broad perspective. Doshisha International Academy Elementary School adopts unique educational practices emphasizing "Internationalism" and fosters people who can play an active role with their conscience. We truly hope that DIA alumni will spread their broad wings around the world.

8名の生徒と2名の教師からなる同志社英学校は明治8年、校祖新島襄の自宅で産声をあげました。以来140年以上が経過しましたが、幼稚園から大学に至るまで、すべての同志社諸学校の教育事業には新島が理想とした良心教育が息づいています。同志社の掲げる教育理念である「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」をもとに、グローバルな視点から初等教育を追求するために、2011年、同志社国際学院は教育活動を開始しました。学研都市に位置することから地元木津川市からも支援をいただきました。同志社国際学院の教育の根幹には「良心を手腕に生かす人物の育成」という建学の精神があるのは勿論ですが、初等部では2つの特色ある授業が実施されています。ひとつは50%以上の授業は英語で行われていることです。この授業形態には文部科学省による教育課程特例校の指定を受けています。2番目は探究的学びです。これは児童が身の回りの世界をより深く理解することを目的としています。「人ひとりは大切なり」と新島は常に語りかけました。他者への思いやりの心に充たされ、常に弱者に寄り添い、グローバルな資質を備えた人物こそが育成を目指す、また新島がこよなく愛した同志社人です。

1864年、幕末動乱のさなか、新島襄は世界へ目を向け、国禁をおかして脱国し、米国に旅立ちました。アーモスト大学で大いに学んだ新島は、1872年3月、ワシントンで岩倉遣外使節団の田中不二郎文部理事官と会い、5月にはヨーロッパ諸国の教育視察を行うため、田中とともにニューヨークを出港します。「同志社設立の始末」には、この時のことを「理事官と偕に先ず北米中著名の<sup>スコットランド</sup>大中小学の学校を巡視し終わって、更に欧州に赴き、<sup>スウェーデン</sup>蘇格蘭、<sup>イギリス</sup>英倫、<sup>フランス</sup>仏蘭土、<sup>スイス</sup>瑞西、<sup>オランダ</sup>和蘭、<sup>デンマーク</sup>丁抹、<sup>ドイツ</sup>独乙、<sup>ロシア</sup>魯西亞等の諸国を経歴し、学校の組織、教育の制度等を初めとし、凡そ事の学政に関する者は、<sup>いさ</sup>聊かこれを観察、講究するを得、その周到善美を尽くせるを觀て、感益々切なり」と述べています。同志社は「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」を教育理念としていますが、まさに、広い視野をもって世界を見つめ、よく理解するという「国際主義」の実践によって同志社は誕生しました。同志社国際学院は諸学校の中でも特に、「国際主義」に力点を置いた教育を展開し、良心を手腕に世界で活躍できる人物を育てます。国際学院で学んだ卒業生が大きく世界にはばたいてゆかれることを心から願っています。



Chancellor of the Doshisha

Hattai Eiji

学校法人同志社総長

八田 英二



President of Doshisha University

Ueki Tomoko

同志社大学学長

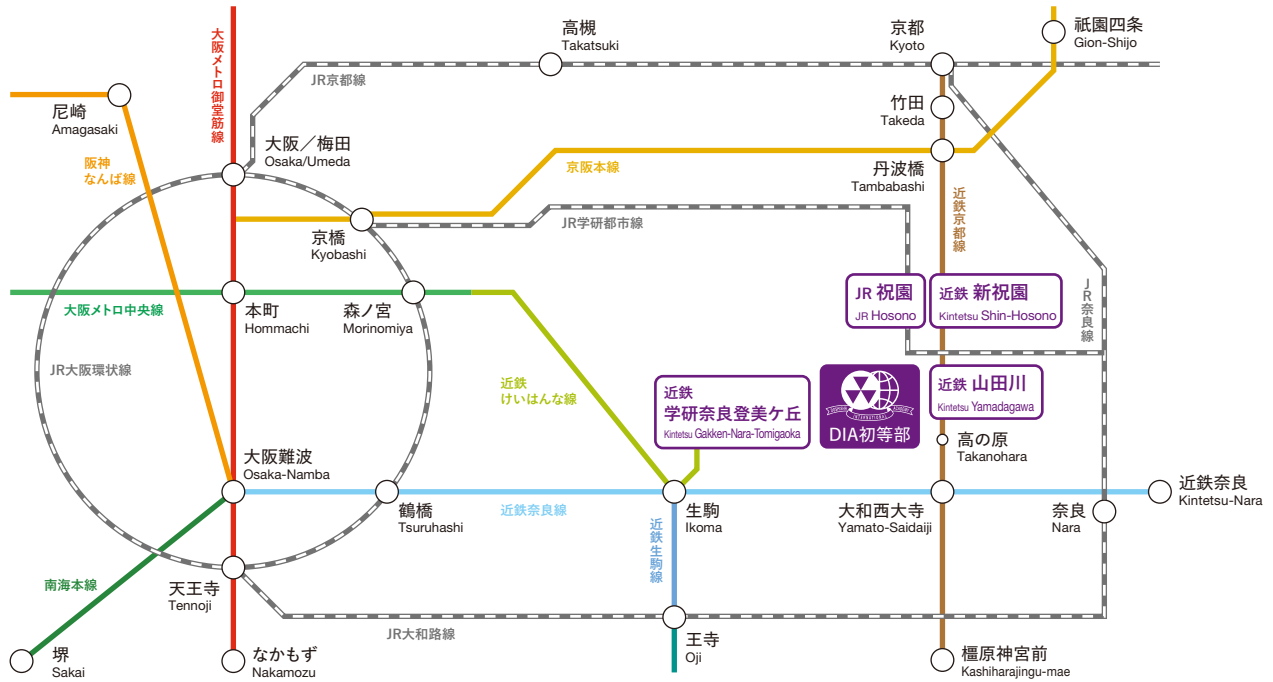
植木 朝子

## 同志社一貫教育

同志社一貫教育は、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」を教育理念に掲げ、建学の精神である「良心教育」をその柱にしています。法人内各学校において、それぞれの発達段階に即した知徳体の全人格教育を展開することによって、良心を手腕に運用する人物、つまり自治・自立の精神にあふれ、博愛精神に富み、個人の尊厳を重んずる人物、モラルに強い、高潔な人格を有する人物、そして国際社会で創造的な活動のできる人物、「一国の良心」を育成することを目的としています。



# ACCESS MAP 関西圏主要駅から最寄駅へのアクセス



## 主要駅と学校を結ぶ直通路線バス

京都、大阪、奈良などから通学する児童のために、近鉄学研奈良登美ヶ丘駅およびJR祝園駅／近鉄新祝園駅と学校を結ぶ直通路線バスが運行されています。

## 車での送迎

学校敷地内のパーキングをご利用ください。自家用車で安全に送迎いただけます。

## 徒歩での通学

近隣児童は徒歩で通学できます。近鉄電車利用の場合、山田川駅より徒歩でも通学できます(3年生以上)。

## ● 主要駅からの所要時間

### 近鉄学研奈良登美ヶ丘駅まで

生駒 Ikoma	9分/min.
鶴橋 Tsuruhashi	30分/min.
森ノ宮 Morinomiya	32分/min.
本町 Hommachi	37分/min.
大阪難波(近鉄) Osaka-Namba	37分/min.
王寺 Oji	40分/min.
天王寺 Tennoji	43分/min.
尼崎 Amagasaki	51分/min.
大阪／梅田 Osaka/Umeda	51分/min.
堺 Sakai	65分/min.
なかもず Nakamozu	67分/min.



駅からバス  
約20分

### JR祝園駅／近鉄新祝園駅まで

大和西大寺 Yamato-Saidaiji	9分/min.
奈良 Nara	16分/min.
丹波橋 Tambabashi	20分/min.
近鉄奈良 Kintetsu-Nara	20分/min.
竹田 Takeda	23分/min.
京都 Kyoto	29分/min.
鶴橋 Tsuruhashi	40分/min.
祇園四条 Gion-Shijo	41分/min.
橿原神宮前 Kashiharajingu-mae	43分/min.
京橋 Kyobashi	54分/min.
高槻 Takatsuki	58分/min.
大阪／梅田 Osaka/Umeda	61分/min.



駅からバス  
約10分

### 近鉄山田川駅まで

大和西大寺 Yamato-Saidaiji	7分/min.
生駒 Ikoma	23分/min.
丹波橋 Tambabashi	26分/min.
京都 Kyoto	35分/min.
鶴橋 Tsuruhashi	38分/min.
大阪難波(近鉄) Osaka-Namba	45分/min.
王寺 Oji	46分/min.
橿原神宮前 Kashiharajingu-mae	46分/min.
祇園四条 Gion-Shijo	47分/min.
森ノ宮 Morinomiya	48分/min.
天王寺 Tennoji	49分/min.
大阪／梅田 Osaka/Umeda	56分/min.
本町 Hommachi	58分/min.
尼崎 Amagasaki	59分/min.
堺 Sakai	62分/min.
なかもず Nakamozu	78分/min.



駅から徒歩  
約15分



同志社大学附属  
同志社国際学院初等部

〒619-0225 京都府木津川市木津川台7丁目31-1

Tel. 0774-71-0810 Fax 0774-71-0815 E-mail: admissions@dia.ed.jp

<https://www.dia.doshisha.ac.jp/>

WEBサイトはこちら

